

市町村食育関連事業の成果及び課題(まとめ)

資料5-1

重点施策1 食育を通じた健康づくり【35市町村／354事業】

プラン1 生涯を通じた健康づくり プラン2 健全な食生活の実現

取組内容	成果	今後の課題
各種健診, 保健指導, 相談事業等 (離乳食相談, 乳幼児健診, 歯科健診, 保健指導)	<ul style="list-style-type: none"> ● 健診受診者全員への指導により、朝食の欠食、野菜や幼児食の食事量や栄養バランスなど、個々に保健指導ができています。 ● 幼児期の食育の大切さについて、温度差はあるものの意識の高揚が図られたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の欠食は減少しているが朝食の内容が乏しくまた家族の共食が少ないため、今後その大切さを伝える食育活動が必要である。 ● 育児不安の内容の変化がみられてきている。母親の調理に関する知識やスキル不足などへの支援が課題。
保育所・幼稚園・学校における食育推進事業 (献立表、給食だより、保育参観、給食試食会、保育所連携による講座)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各保育所において、食育計画に基づいた活動が実施され、保育の中で食事のマナーや食習慣、食事前後の衛生習慣の食育が定着している。また、朝食の欠食の減少が見られた。 ● 市町村担当課と幼稚園との連携ができた。保護者の家庭での食について振り返るきっかけとなる。 ● 保育所や学校給食センターの管理栄養士と協働して事業をすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の欠食を減らすには、児の生活リズムの改善のほか、家庭全体の生活、食の改善が必要と考えられる。保護者の朝食欠食、個食が見受けられる。 ● 幼稚園とのつながりを更に密にし、共催での取り組みが行えるような仕組み作りが必要である。 ● 小学校のPTAに働きかけ、学年PTAの行事に組み込んでいただくなど、親世代への生活習慣病予防が必要。
健康づくり推進事業 (地区健康教室, 生活習慣病予防事業)	<ul style="list-style-type: none"> ● 市町村担当課と公民館との連携による取組ができた。 ● 食育という言葉や取り組みに対する認識が以前よりも出てきたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者世代や男性も含む、幅広い世代等への参加を促すこと。 ● 家族形態や勤務形態など、生活スタイルが多様化してきているため、個々にあった効果的な啓発が課題。
栄養・食生活改善講座, 調理実習 (親子の料理教室, 食育講座, 食生活改善講習会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習課と連携することで幼稚園から小中学校の保護者への声掛けがスムーズにできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 働く世代や男性の参加が少なく、他団体との連携や周知方法等について検討が必要。 ● 健康課題の多い男性や特に若い年代への普及啓発事業は実施が難しいので、個別支援等別の事業で対応する。
イベントによる普及啓発 (大型量販店での体験型イベント, 健康・食育フェスティバル, 食育キャンペーン, 塩エコキャンペーン)	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供が難しい若い世代の親子に興味をもってもらうことができた。 ● 幼稚園の協力を得て多くの子育て世代に情報提供する機会が得られた。 ● 幼児から高齢者まで多くの来場者に幅広く情報や知識を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 思春期・青年期世代の関心をさらに得られるような内容や周知の工夫をしていきたい。 ● 次世代へ食の大切さを普及していくためにはより多くの若い世代の参加が必要である。

重点施策2 五感を使った食育の推進【32市町村／228事業】

プラン3 楽しく食べる環境づくり プラン4 体験を通じた食育の推進

取組内容	成果	今後の課題
<p>給食指導</p> <p>(食育学習指導, 給食試食会等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の小さな取り組みの積み重ねができるため、年間を通して食への興味関心を引き出すことができた。 ●保護者の学校給食への理解を深めるとともに、家庭での規則正しい食習慣についての意識付けを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校給食栄養士・栄養教諭などの連携がさらに必要である。 ●肥満傾向の児童・生徒に対し、各学校において「児童生徒への個別指導等」や「保護者への啓発や相談」等を行っているが、保護者の意識と各家庭の生活状況の多様化等の影響もあり、肥満割合の減少にはなかなかつながらない。 ●就寝及び起床時間の遅い児童・生徒の朝食欠食率が高い状況と、食事が準備されていないという理由で欠食する実態もあることから、朝食の重要性を保護者へ働きかける事も必要である。
<p>農業体験学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●季節の野菜栽培、収穫、調理活動、食べる体験は旬の野菜を知る機会や食への意欲・関心を高めている。 ●レクリエーション農園の開設や利用希望の相談が増え、市民の「農」に関する関心が高まった。 ●学童農園の実施校も年々増加傾向にあり、より多くの児童生徒等が農業への理解や食生活の大切さを学ぶ機会を得た。 ●農業体験や調理実習等を通して親子で農産物や食について興味関心が高まった。 ●参加者からの声に、普段の生活では体験できないことができたことや食物を育てる大切さを学べたなどがあり、農家ではない方々へ食物の大切さを伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫した食材を使用した献立の工夫や給食残渣の堆肥を園内の畑への活用につなげられるような検討が必要である。 ●市民や学校等への事業紹介等の情報提供を行い、今後も事業推進を行っていく。 ●農家との調整、プランづくりが多岐にわたるため、観光協会・農協等と連携し地道な支援が必要である。
<p>調理の実践</p> <p>(食育教室, 料理教室等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●料理を作ることへの意欲の向上や達成感を子どもが感じることができ、一緒に食べる楽しさを親子で感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リピーターの参加が多く、若い世代の参加が少ないので、広報やチラシの配布など周知方法を検討する。

重点施策3 「食材王国みやぎ」の理解と継承【32市町村／166事業】

プラン5 地産地消の推進 プラン6 食文化の伝承

取組内容	成果	今後の課題
<p>祭・イベントを通じた意識啓発</p> <p>(フェア・健康フェスティバル・産業まつり・コンテスト等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●不特定多数の町民に対し「地産地消の推進」や「よい食生活の定着」に向けた周知をおこなうことができた。 ●パネル展示, とん汁試食, 野菜釣り体験など, 五感をフルに使って食育に触れることで, 幼児から高齢者まで幅広く情報や知識を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●思春期・青年期世代の関心をさらに得られるような内容や周知の工夫をしていきたい。
<p>郷土料理, 行事食の伝承</p> <p>(給食での提供・調理実習・行事食の体験・レシピ集の作成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●節句にちなんだ料理や冬至かぼちゃなどの季節の行事食やおくずかけ, はっと汁, ずんだもち(団子)などの宮城の郷土料理を伝えることができた。 ●地元の子どもと大人, 高齢者の世代間交流の場となっている。また, 家庭で出来ない行事を地元の大人たちと体験することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在提供している郷土料理以外にも学校給食で提供できるものについて検討が必要である。 ●今後も継続実施できるよう, 関係者と連携をとっていききたい。
<p>地場産食材の利用推進</p> <p>(地場産給食の日・ふるさと給食など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●掲示用一口メモ, 校内放送用一口メモを活用して, 地域食材の紹介したり, 献立表に明記したりし, 児童・生徒, 家庭への情報発信を行い, 給食で積極的に使用することで, 地域食材の活用について理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在使用している地場産品以外に使用品目を増やすのは, 学校給食で使用できる規格や価格など色々な制約があり難しい状況である。学校給食で使用できる物資の取り扱い商品等の情報の提供も必要である。また, 食に関する指導も地元の産物や食文化, 食に係わる歴史等を理解し尊重する心を育むことを目標としていることから, 今後も積極的な活用が必要とされている。 ●給食時訪問は, 短時間のため, どうしても指導内容がしぼられてしまう。事前調査をするなどし, 各学級の実態に即した指導ができればより効果的になるのではと考える。
<p>生産者と消費者の交流活動</p> <p>(見学会など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●消費者と生産者が交流する農業体験等を通して, 食育・地産地消への関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●震災により, 実施団体が減少した。 ●野菜等の直売を行っているが, 農産物の品目数, 数量及び参加農家の確保や, 購入者の伸び悩みなどの課題がある。

重点施策4 食の安全安心に配慮した食育【24市町村／71事業】

プラン7 安全安心な食品供給の確保 プラン8 食の安全安心に係る信頼関係の確立

事業名	成果	今後の課題
各種情報媒体を活用した情報提供 (広報誌・ラジオ・ホームページ・給食だよりなど)	<ul style="list-style-type: none"> ●相次ぐ食品偽装や食品表示制度の複雑化に不安を抱える消費者に対して、食の安全・安心についての正しい知識を提供し、また、新たな食品表示のルールについて情報提供を行うことで、食育を推進することができた。 ●町の食育に関する取り組みや情報提供を広く周知することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌を見ていない人、ラジオを聞けない人多くいる。 ●特に若い世代など多くの方に啓発できる手段となっていると思われる。定期的な更新による情報発信や、アクセス数の確認等しながら、より良い内容にしていく。
放射能物質検査, 結果の公開		<ul style="list-style-type: none"> ●今後も放射性物質において、心身の不安を抱える保護者や市民に対して検査を実施し、情報を発信していく必要がある。

重点施策5 みんなで支えあう食育【33市町村／129事業】

プラン9 食育支援ネットワークの強化 プラン10 食育推進体制の充実

事業名	成果	今後の課題
食育推進会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●関係部署における活動の情報交換、課題共有が図られ、様々な連携につながっている。 ●委員から活発な意見をいただきながら、地域の状況に合わせた食育推進計画を策定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各部署の連携による効果的な食育推進の必要がある。 ●例年事業内容に大きな変化がない状況になりつつあるので、常に新しい発想で進めていきたい。
食育に関わる人材の育成 (食生活改善推進員, 食育サポーター等)	<ul style="list-style-type: none"> ●食育サポーターのスキルアップやグループ同士の交流の場となった。 ●食生活改善推進員の自主的な活動により、地域でうす味や野菜摂取の大切さの啓発普及につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●食育サポーターの更なる資質向上となるよう活動に合わせた育成研修会を実施する。
食育に係る普及啓発 (広報誌, ホームページ, ラジオ, 食育通信等)	<ul style="list-style-type: none"> ●食に対する関心が深まり、若い世代への啓発にもなっている。 ●庁舎内の各部署、関係団体の連携が深まった。 ●全世帯に配布することで、広く健康づくりに関する啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の食育活動や家庭で実践できる内容の紹介など充実させる。 ●どの程度意識づけ出来たか把握しにくく、事業の評価が難しい。 ●広報誌以外の媒体としてホームページへの掲載と更新を行い、更なる周知を図りたい。